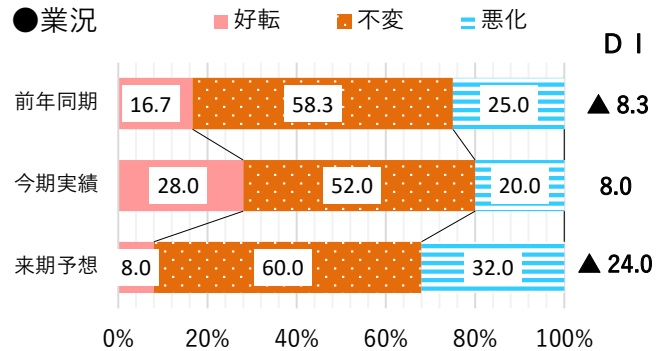


観光業

業況、売上、採算

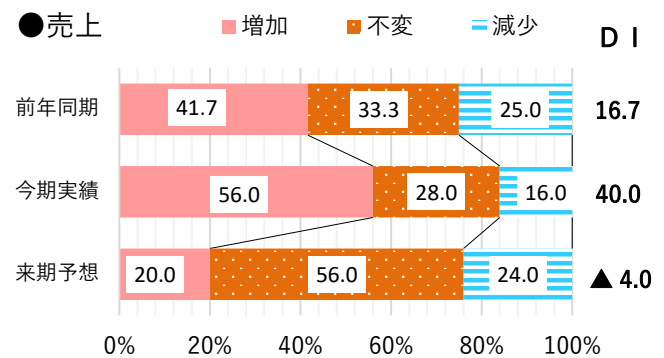
今期（2026.7～9）の業況DIは8.0で、前年同期（2025.7～9）と比べ16.3ポイント上昇しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは▲24.0で、今期（2026.7～9）と比べ32.0ポイント低下すると予想しています。



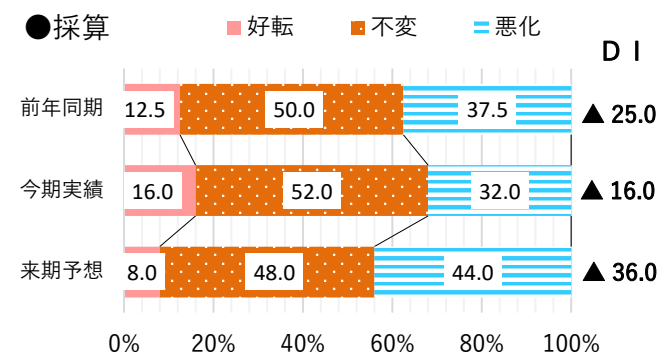
今期の売上DIは40.0で、前年同期と比べ23.3ポイント上昇しました。

来期の売上DIは▲4.0で、今期と比べ44.0ポイント低下すると予想しています。

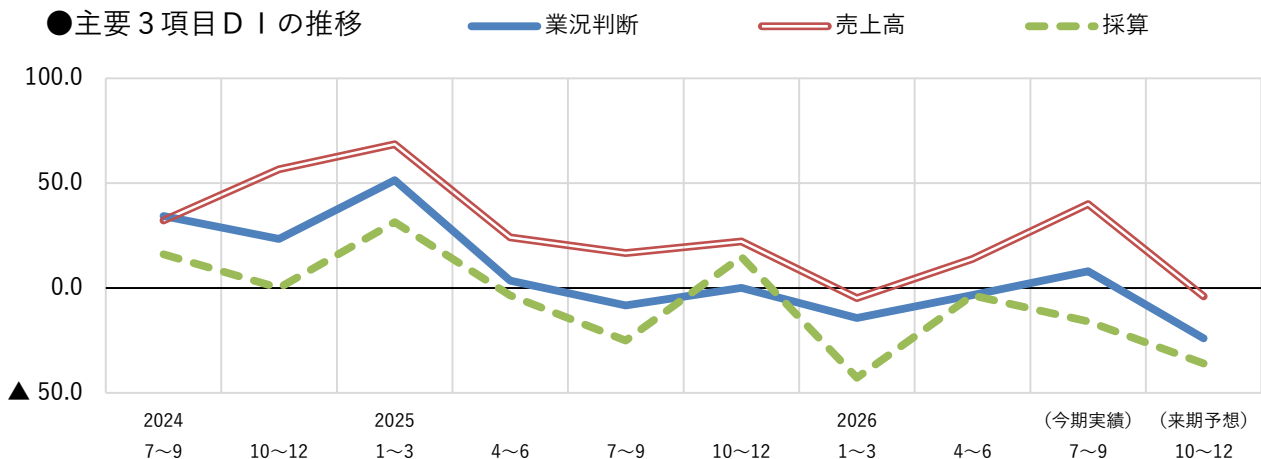


今期の採算DIは▲16.0で、前年同期と比べ9.0ポイント上昇しました。

来期の採算DIは▲36.0で、今期と比べ20.0ポイント低下すると予想しています。



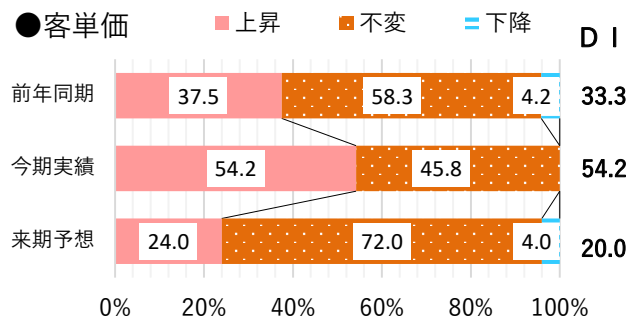
●主要3項目 D I の推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

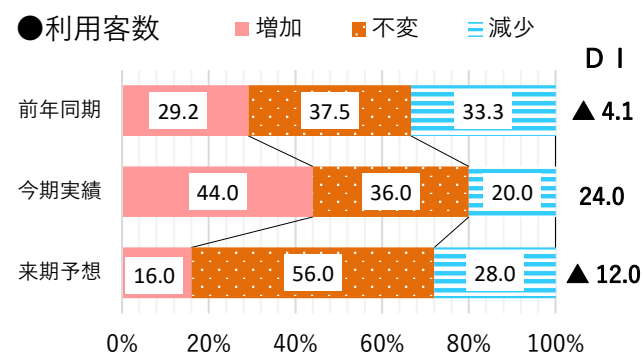
今期の客単価DIは54.2で、前年同期と比べ20.9ポイント上昇しました。

来期の客単価DIは20.0で、今期と比べ34.2ポイント低下すると予想しています。



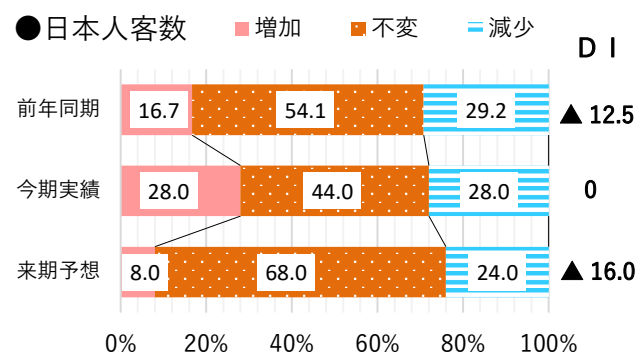
今期の利用客数DIは24.0で、前年同期と比べ28.1ポイント上昇しました。

来期の利用客数DIは▲12.0で、今期と比べ36.0ポイント低下すると予想しています。



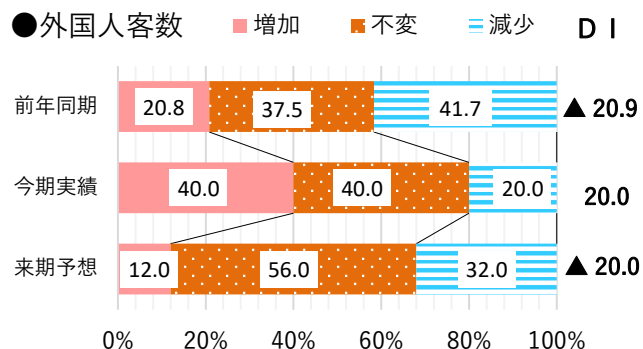
今期の日本人客数DIは0で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇しました。

来期の日本人客数DIは▲16.0で、今期と比べ16.0ポイント低下すると予想しています。



今期の外国人客数DIは20.0で、前年同期と比べ40.9ポイントと大幅に上昇しました。

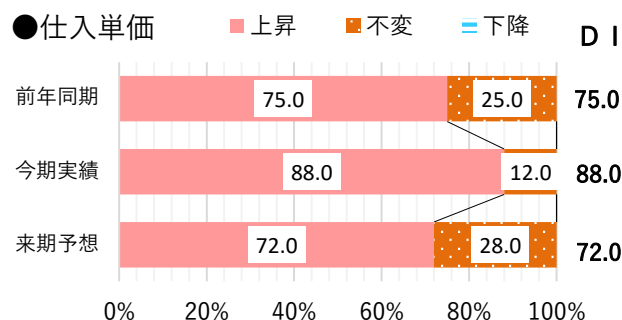
来期の外国人客数DIは▲20.0で、今期と比べ40.0ポイント低下すると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは88.0で、前年同期と比べ13.0ポイント上昇しました。

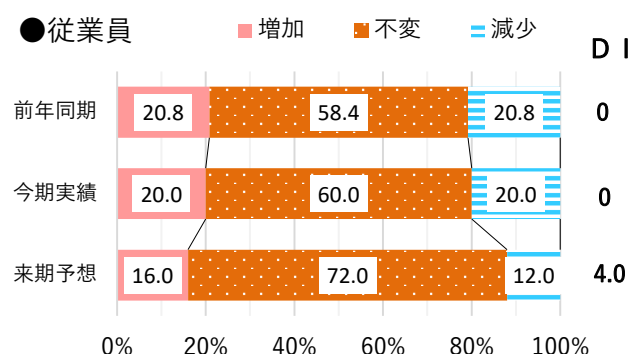
来期の仕入単価DIは72.0で、今期と比べ16.0ポイント低下すると予想しています。



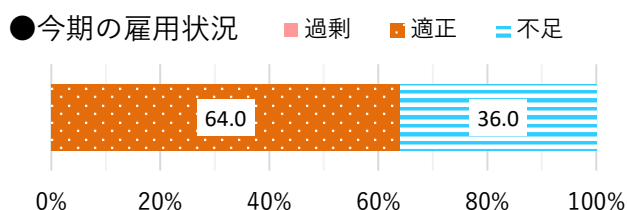
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0で、前年同期と比べ変化なしとなりました。

来期の従業員DIは4.0で、今期と比べ4.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は64.0%、不足していると回答した企業の割合は36.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、40.0%を占めました。

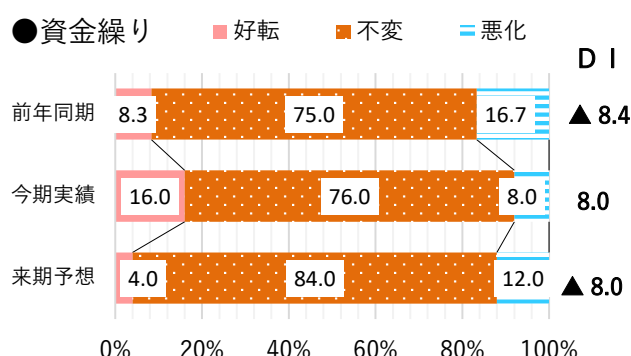
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	16.0%
	不足	4.0%
不変だった	過剰	0%
	適正	40.0%
	不足	20.0%
減少した	過剰	0%
	適正	8.0%
	不足	12.0%

※回答総数25社

資金繰り、設備投資

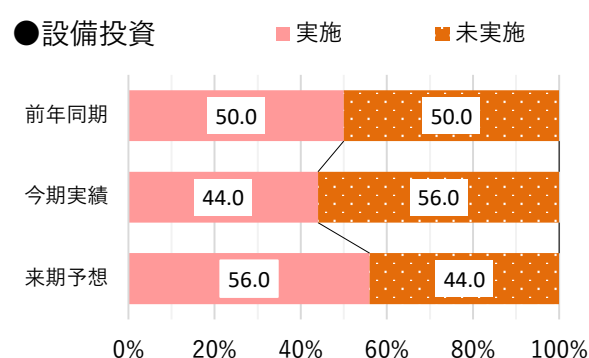
今期の資金繰りDIは8.0で、前年同期と比べ16.4ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは▲8.0で、今期と比べ16.0ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は44.0%が実施と回答し、前年同期と比べ6.0%低下しました。投資内容は、1位が「付帯施設」、2位が「建物」「サービス設備」「OA機器」（同位）でした。

来期は56.0%が設備投資を計画していると回答しています。

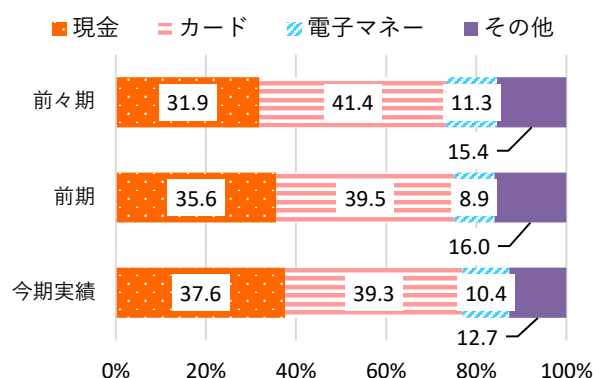


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位がカードで39.3%、2位が現金で37.6%、3位がその他で12.7%、4位が電子マネーで10.4%となりました。

その他で挙げられた決済方法は、銀行振込、売掛金、クーポン、おたるプレミアム付商品券の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

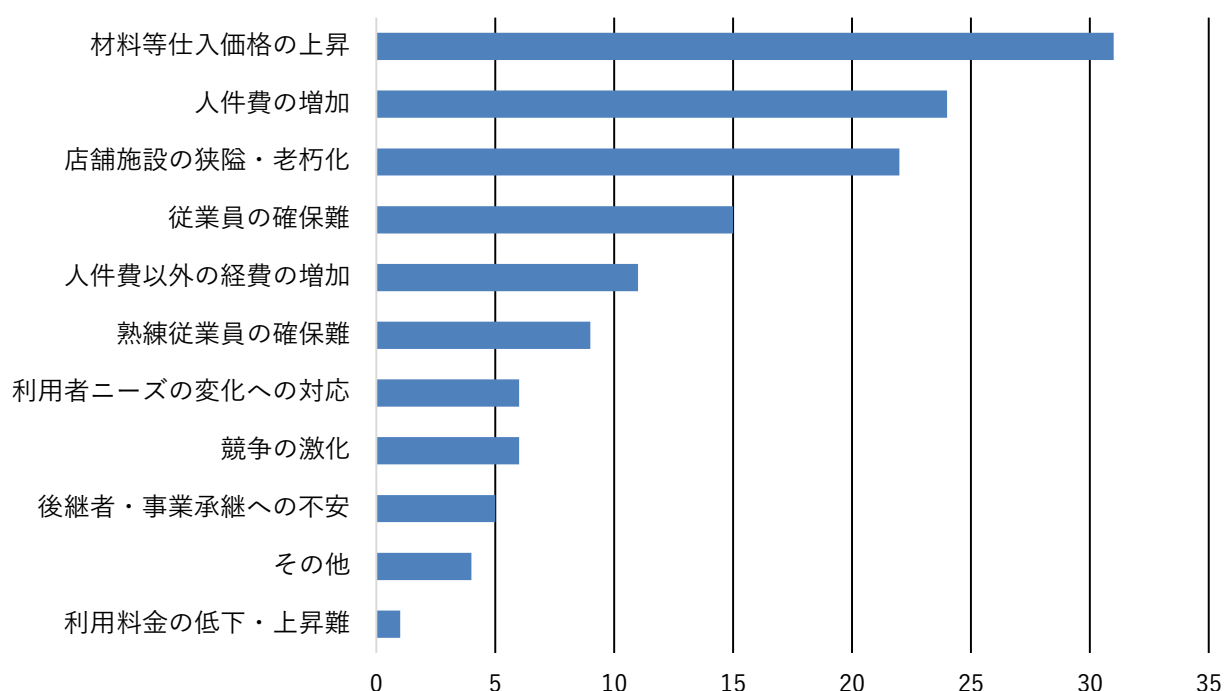


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は84.4%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 夏のうにや秋の秋刀魚、鮭など旬の食材が高値で仕入単価が上昇した。（飲食）
- 9月に入り、国内客や地元客が増加した。（飲食）
- 来店客数は国内客・外国人客ともにわずかに減少した。一方で、外国人客からは円安の影響と思われる強い購入意欲が見られ、全体的に売上単価が上昇したことで売上高は増加している。しかし、原材料価格の高騰が続いており、利益の確保は依然として難しい状況である。人材面では、社員・パートの募集に対して応募が入り始めている状況である。（土産品）
- 休みを増やした分、売上が減少した。（土産品）
- 特に状況に変化はない。（土産品）
- 仕入値と人件費が上昇したが、レンタカー料金の改定で売上は増加した。（レンタカー）
- パートの募集をしているが、問い合わせもなく難航している。（レンタカー）
- インバウンドについては、中国人客は減少したものの、アジア各国からの利用客が増加しており、全体として大きな変化はなかった。一方で、パート従業員は依然として不足している状況である。（ホテル）
- 仕入価格、賃金の上昇で業況が悪化した。（ホテル）
- 広告効果などにより、稼働が上昇した。（ホテル）
- 売上高は不変だが、材料費や人件費などが高騰しているため業況が悪化した。（社会教育）
- 天候が悪い日が多く、利用客数と売上が若干減少した。（水運業）
- 売上の減少と原価料の上昇があった。（娯楽業）

[来期の業況について]

- 観光客の来店数が減少すると考えている。（飲食業）
- コロナ禍後の小樽観光ブームは一段落していると感じており、来期も国内客・外国人客ともに減少すると予想している。高価格帯製品の売行きが堅調なため、売上高は前年同期並を見込んでいるが、原材料価格の上昇により収支は依然として厳しい状況を予想する。人材面では、外国人の新規社員採用が確定しており、人手不足の解消を図りたいと考えている。一方で、来期から最低賃金が増加するため、人件費の上昇を懸念している。（土産品）
- 価格単価を上げる予定だが、最低賃金も上がるため、業況は悪化を見込む。（土産品）
- 予約件数が前年並に推移し、悪化にはならないと見込む。（レンタカー）
- 世界情勢の変化がホテル業界に影響を及ぼさないことを願っている。（ホテル）
- 来期は今期に比べ営業期間が短いため、売上が減少し、支出は前年より増加を見込んでいるので業況の悪化を予想する。（社会教育）
- 冬期の閑散期に入るため、客数と売上のどちらも減少が見込まれる。（水運業）